

2013 UCI シクロクロス世界選手権 レースレポート

パナソニックレディース 豊岡英子

日時 2013年2月2日

場所 アメリカ ルイビル

天候 雪、晴れ

結果 -1ラップ 26位



今年初開催アメリカはルイビルでの世界選手権。

12月中旬からのヨーロッパ遠征、そしてこの世界選手権でおよそ2か月に渡る遠征を終える。

前代未聞のオハイオ川の氾濫のため一日前倒しの土曜日にジュニア、アンダー、エリート女子、男子と4カテゴリーが行われた。

短いオンロードのホームストレート、急な階段、急こう配の上り下り、砂区間全てが織り交ぜられた小さいサーキット。

そして、かなりのテクニックと足が要される。

気温の変化が著しく、毎日毎周回コース状況が変わる、とても難しいコンディション。

当日の気温は0℃、女子のスタートは11時。

微妙に凍った路面が溶けだし、路面の下が凍っている難しい状態。

これを普通に走れるトップ選手を本当にすごいと思う。

会場に9時入りし、試走に行く。

路面が凍っていて、かなり滑る状態。

昨日まで普通に下れていた下りも、ラインをかなり変えなければならない。

試走を終え、アップまで待つ。

ジュニアの選手がアップ完了し、スタートラインへ。
時間が来て、アップを入念に汗が噴き出るまでこなす。
ジャージを着替えていざ、スタートラインへ。
さっきまで降っていた雪が止まり、太陽が出てきて気温が上昇している。
これは、かなり走りにくいコンディションになっているだろうな、と予想する。
スタートするが、オンロードからオフロードに入った下りで落車発生。
思っていた所で落車があったので、不思議と落ち着いていた。
目の前で自転車がなぎ倒れていたが、間一髪避けれた。
大体 20 番手位で走行する。
2 周目に入りコンディションが激変していくのが解る。
気づいたら落車しているという、氷レース特有の状態になっていく。
落ち着け落ち着けと心の中では言うけれど、コーナーごとにビビりが入っていく。
下りのラインや激上りのラインもどんどん変化していく。
トップの選手のラップタイムがかなり速いのが、電光掲示板で解る。
ミスが連発し始め、集中力が途切れて行くのも感じた。
ここから持ち直さなければ、と 4 周回目からもう一度踏み直す。
やはりオンロードが、極端に他の選手より遅いと感じられた。
5 周回目を完了しようとしたら、審判に止められた。
またもや完走できず。
とても悔しい気持ちで、日本コンテナに帰った。
色々考えた。
毎回同じ結果にやるせなさも少し感じたが、遠征を通して見えた物もいっぱいあった。
昨年までの自分はレース後何も考えていなかった。
今回の世界選手権、結果は出なかったが本当に沢山のことを学んだ気がする。
来シーズンに絶対繋げていきたい。
応援ありがとうございました。

使用機材

自転車	パナソニック
ヘルメット	OGK KABUTO
ステム	dixna
ハンドル	onebyesu
フォーク	onebyesu
バーテープ	dixna
サングラス	adidas eye wear
ウェア	パールイズミ

タイヤ	challenge
サドル	fizi:k
遠征バック	deuter
チェーンオイル	Holmenkol
インソール	SIDAS
コンプレッション	2 X U